

ガーナ共和国大統領ジョン・アジエクム・クフォー(John Agyekum Kufuor)閣下
のスピーチ (横浜市議会議場にて)

中田宏横浜市長、藤代耕一横浜市会議長、ならびにご出席の皆さま、そしてこの会合に参加されたかわいい児童の皆さま、

今回、「アフリカ開発会議」に出席するために来日でき、この美しく、また歴史的に由緒ある横浜市をお訪ねすることができたことを心からうれしく思います。またこの場をかりて、横浜市民の皆さま方が、私と私の国の代表団の日本到着以来、私たちをたいへん暖かく迎え入れてくださったことに感謝したいと思います。

私たち両国はもう長い間、互いに関わりあってきました。近年では私の前任者が3度日本を訪れています。私自身も過去7年の間に日本を3度訪れました。ガーナもまた日本の貴賓をお迎えする榮譽に浴し、この度の主催者である中田宏市長も10年前に国会議員をしておられたときにガーナを訪ねられました。2006年には小泉純一郎首相をお迎えするという榮譽に浴し、小泉首相はそのとき「野口英世アフリカ賞」を設けて、医学の研究を含めて医療サービスの分野で特に貢献した人々に授与することになったと発表されました。その最初の授賞式が TICAD IVの一環として明日、ここ横浜で行われることになっています。

野口英世博士は1927年にガーナに来られたときにはまだ青年でした。博士は医学者として黄熱病の原因について研究されていました。博士はその研究の途上でガーナの地でこの世を去られました。しかしガーナの国民は野口博士のことを決して忘れてはいません。人々はノグチという名前をほんとうによく知っています。ガーナ最大の専門病院であるコルレ・ブー教育病院(Korle-Bu Teaching Hospital)の正面玄関には野口博士の像が飾られていますし、ガーナで最も権威のある大学(premier University)の主要な医学研究所も博士の名にちなんでノグチと命名されています。

野口記念研究所は野口博士の名にふさわしい研究を行っています。それには結核や HIV/AIDS などの有害なウイルス、マラリアなどの熱病の研究が含まれます。私は野口博士が医学者としての道を歩み始めたここ横浜市を訪れることに自然と興奮を覚えています。日本はノグチを生み、博士は人類のために命を捧げてガーナで亡くなりました。

来賓の皆さま、ガーナ政府は優れた民主的國家統治の追求と人権の尊重という公約を守りながら、なかなかマクロ経済の安定の回復と「ガーナ貧困緩和戦略(GPRS)」のもとで細心の行動計画の推進の点で印象的な成果をあげてきました。私の政府は中期的な枠組みのもとで、活発なインフラ開発、農村開発、農業の近代化、社会サービスの強化を優先課題とし、とくに保健と教育、民間セクターの育成に重点を置いています。

ガーナはそれらの分野でも日本から多大な援助と支援を受けてきました。私はここで日本の寛大な決定に触れて置きたいと思います。それはガーナが HIPC(重債務貧困国)イニシアチブ」を採択した際、(債務救済金を)主要ハイウエーのひとつである「アクラーヤモランサ道路 (Accra-Yamoransa Road)」建設のための供与、融資に転換するというものでした。ガーナは、日本が次の点で優先されるアフリカの

3つの国の1つにガーナを選んだことに感謝しています；

- i、今後の開発協力と技術支援、および
- ii、ガーナの遠隔地での社会－経済プロジェクト実施における日本の海外協力ボランティアによる支援。

当然のことではありますが、ガーナは日本との関係と並んで、アフリカ開発推進においてアジア－アフリカ間協力のための地球規模の枠組みとしてのアフリカ開発会議(TICAD)を大いに重視しています。TICADは1993年の最初の会議以来、アフリカが開発過程を自らで把握するよう促進し、アフリカとその開発パートナーとの結びつきを強化するのに大きく貢献してきました。第2、第3回の会議では地域の優先課題に全面的に取り組めるようになりました。現在では重点が「ミレニアム開発目標」の達成、アジア－アフリカ協力、大陸での紛争に取り組むことの重要性、そして民間セクターと市民社会の十分な参画による平和と優れたガバナンスの強化に置かれています。

日本やその他の開発のパートナーの支援を得て、およそ2億4,000万人のアフリカの住民が健康の改善を目のあたりにしてきました。およそ300万人の人々が安全な飲料水を手に入れられるようになり、260万人もの子どもが学校教育を受けられるようになりました。支援はなканずく母子保健のための手段、家族計画、教育、女性の権利拡大、HIV/AIDSとの闘いに向けられてきました。農業のセクターでは、日本がアジア・アフリカ系の特別品種の米、つまり「アフリカのためのニューライス(NERICA)」を導入したことで、アフリカ諸国のための食糧確保が大いに強化されました。

平和と人間の安全保障では、紛争の予防・管理・解決のためのアフリカ連合(AU)のメカニズムが、1999年の「人間の安全保障のための国連信託基金」の設置を通じて早期警戒システムを設け、紛争解決のための会議を開くのに役立ってきました。TICADも地雷の除去や地雷の被害者を支援し、難民や国内避難民の社会復帰を支援してきました。

TICAD イニシアチブのもとでの情報・コミュニケーション技術、政策立案、能力づくりのための支援はカメルーン、ナイジェリア、タンザニア、ザンビアの各国で実施されてきました。ベニンには地域のコンピュータ・サーバーセンターも設けられて、アフリカとアジア間のビジネス情報の交換を促進しています。

私はTICAD IVがアフリカの経済成長を促進し、教育、保健、人間の安全保障を強化することを望んでいます。それが環境と気候変動の問題に前向きのインパクトを与え、アフリカと日本に互いに恩恵をもたらす協力関係を強化するような行動計画を生み出すことを望んでいます。

市長、ならびに市議会議員の皆さま、そしてここにご参加の生徒の皆さま、私は皆さま方にお話をし、皆さま方と交流できたことを誇りに思い、また光栄に思います。

ありがとうございました。